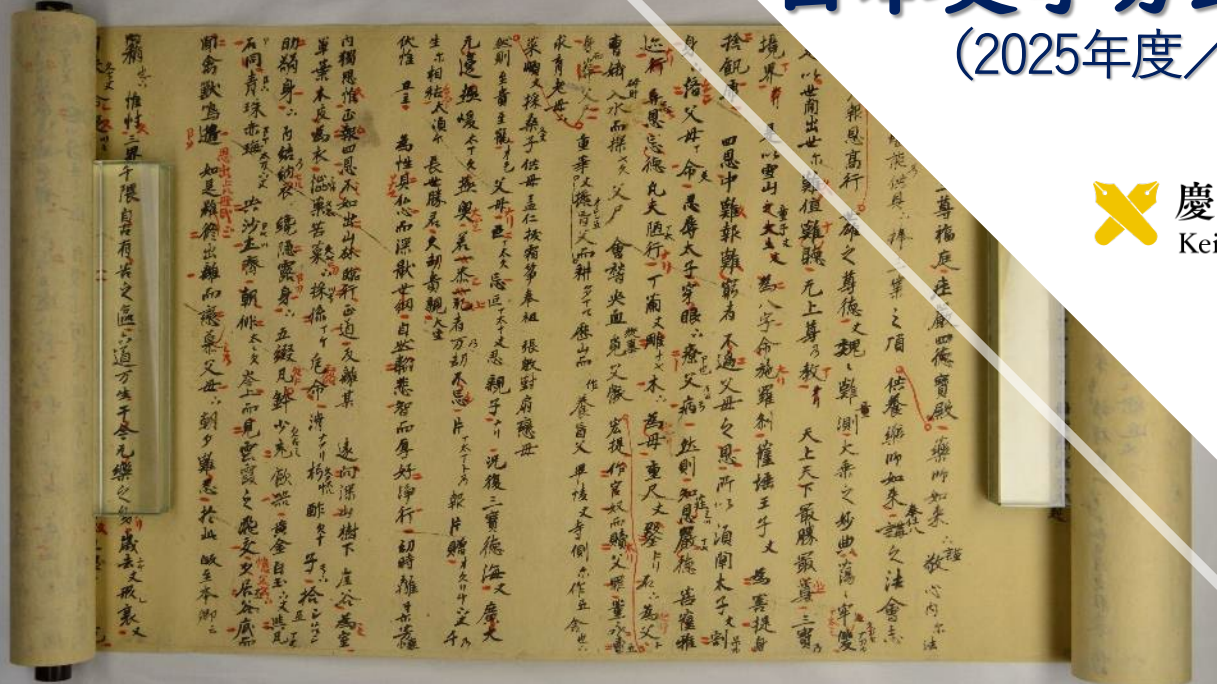




慶應義塾大学大学院
文学研究科史学専攻

日本史学分野ガイダンス (2025年度/オンライン)



慶應義塾大学大学院文学研究科史学専攻 日本史学分野ガイダンス

本日の内容

1. 指導体制

日本史学分野で研究指導を担当する教員をご紹介します

大学院指導教員紹介 / 科目担当教員紹介

2. 教育内容・研究環境

日本史学分野で学べることと研究環境をご紹介します

日本史学分野の特長 / カリキュラム / 修士課程設置科目 / 後期博士課程設置科目 / 研究環境
図書館・研究所 / 経済的支援制度 / 学会活動 / 国際学術活動 / 研究プロジェクト / 修士論文 / 博士論文

3. 進路状況・大学院入試

日本史学分野修了者の進路と院試情報をお伝えします

専門性を活かした進路 / 修了者の声(高校教諭・文書館職員) / 大学院入試 / 志願者・合格者数 / 在籍者数



1. 指導体制

① 大学院指導教員紹介(中世)

中島 圭一 教授 [博士(文学)東京大学]

専門 日本中世史

『アジア遊学273 日本の中世貨幣と東アジア』勉誠出版, 2022(編著)

「中世的流通構造形成の周辺」『年報中世史研究』47, 2022

「慶應義塾図書館所蔵『日次記』と徳川吉宗」『史学』90-2・3, 2022

「中世経済を俯瞰する」『中世史講義—院政期から戦国時代まで』筑摩書房, 2019

主要業績 「十五世紀生産革命論再論」『国立歴史民俗博物館研究報告』210, 2018

『十四世紀の歴史学:新たな時代への起点』高志書院, 2016(編著)

「戦国時代の大名・国衆にとっての室町幕府的規範」『発掘調査成果でみる16世紀大名居館の諸相—シンポジウム報告』東國中世考古学研究会, 2016

『中世を終わらせた「生産革命」—量産化技術の広がりと影響』平成23~26年度科学研究費補助金(基盤研究B)研究成果報告書, 2015(編著)

所属 三田史学会 / 歴史学研究会 / 史学会 / 日本歴史学会

研究紹介 文献史料だけでなく、考古資料も活用しながら、高利貸や商人の活動、銭貨の流通、あるいは生産技術の発展など、中世の経済史について、これまで主に研究しています。



1. 指導体制

① 大学院指導教員紹介(近世)

浅見 雅一 教授 [博士(文学)東京大学]

専門

キリタン史 / 中国天主教史

主要業績

「アントニオ・ヴィエイラのフランシスコ・ザビエル論について」『キリタン文化研究会会報』第162号, 2023
 「大航海時代史概説」・「インド洋は誰のものか:ピトリア, グロティウス, フレイタスの議論」JAXA宇宙大航海時代検討委員会編『宇宙大航海時代:「発見の時代」に探る, 宇宙進出への羅針盤』誠文堂新光社, 2022
 『キリタン時代の良心問題:インド・日本・中国の「倫理」の足跡』慶應義塾大学出版会, 2022
 『キリタン教会と本能寺の変』角川新書, 2020
 『キリスト教と寛容:中近世の日本とヨーロッパ』慶應義塾大学出版会, 2019(共編著)
 『概説キリタン史』慶應義塾大学出版会, 2016
 『近世印刷史とイエズス会系「絵入り本」』慶應義塾大学文学部, 2014(編著)
 『韓国とキリスト教:いかにして“国家的宗教”になりえたか』中公新書, 2012(共著)

所属

三田史学会 / 東方学会 / 史学会 / キリタン文化研究会

研究紹介

16・17世紀のキリタン時代の歴史を, イエズス会を始めとするカトリック修道会の宣教師達がヨーロッパ本国に送付した書翰や報告書を用いて研究しています。とりわけ, 東アジアにおけるキリスト教の神を崇めることに対する倫理の問題に関心を持っており, 日本の問題を中国のそれと比較しながら検討しています。

1. 指導体制

① 大学院指導教員紹介(近現代)

小山 幸伸 教授 [博士(史学)中央大学]

専門

近世・近代日本の社会経済史／歴史教育

主要業績

「名主文書にみる近代初期の地域社会—近世から近代への地域社会の連続性と変革性」『史学』93(2・3), 2024
 「明治期における吉田家の下総開墾地経営」『敬愛大学研究論集』101, 2022
 「歴史研究と歴史教育の連関—「鎖国」研究の動向と、学習指導要領・教科書記述の変遷」『敬愛大学研究論集』98, 2020
 「「日本史探究」担当者育成のための教職課程における課題—地域を学習教材とした地理歴史融合授業の実験を通して」
 『敬愛大学研究論集』97, 2020
 「近世長崎における日雇助成の意義」『敬愛大学研究論集』73, 2008
 『幕末維新时期長崎の市場構造』御茶の水書房, 2006
 「近世都市長崎における救貧活動」『敬愛大学研究論集』70, 2006

所属

社会経済史学会 / 歴史学研究会 / 日本史研究会 / 地方史研究協議会 / 三田史学会 / 中央史学会

研究紹介

近世から近代の地域経済の発展について研究しています。商人や農民の経済活動を示す古文書を調査し、そこから判明する社会のあり方を検討しています。金銭貸借や商品取引の実態から、地域市場圏の構造を解明することを目的としています。とりわけ近世後期に成長した商人や富農が、近代初期にどのような経済活動を行い、地域社会においてどのような地位を占めていたのかを分析することにより、近世から近代の連続性と変質がどのようなものかを明らかにしようとしています。

1. 指導体制

② 科目担当教員紹介(古代)

十川 陽一 准教授 [博士(史学)慶應義塾大学]

専門

日本古代史

主要業績

「陸奥出羽按察使と秋田城司」『史学』93-1, 2024

「律令官人制と地方社会」『歴史評論』886, 2024

「牧の運営からみた官人身分—日唐牧制の比較から—」『続日本紀研究』429, 2022

「出羽国府と国内支配」『日本歴史』879, 2021

「平安前期の在地有力者と律令官人制—武散位・衛府舍人・院宮王臣家人を中心に—」『日本史研究』707, 2021

『人事の古代史 律令官人制からみた古代日本』ちくま新書, 2020

「交通路の管理—八～九世紀における道路・橋の修理を中心として」佐々木虔一・武廣亮平・森田喜久男編『日本古代の輸送と道路』八木書店, 2019

『概説日本法制史』弘文堂, 2018(共編著, 2023年第2版刊行)

所属

日本歴史学会 / 史学会 / 法制史学会 / 木簡学会 / 東方学会 / 三田史学会

研究紹介

律令制を中心に、奈良・平安時代の国家と社会との関係に関心を持っています。日本律令の母法である中国律令との比較や、中国から継受した律令が日本に定着してゆく過程について、都造りや官人の制度、および古代東北史から研究を進めています。

1. 指導体制

② 科目担当教員紹介(古代)

藤本 誠 准教授 [博士(史学)慶應義塾大学]

専門

日本古代史

主要業績

- 「辺境と宗教」川尻秋生・十川陽一・藤本誠編『律令国家の辺境と交通—揺れ動く南北の境界と領域—』八木書店, 2025
 「日本古代の疾病(障害)表現の特質—仏教関係史料を手がかりとして—」障害史研究会編『障害史へのアプローチ』(2019～23年度科研成果報告書・障害史研究別冊)2024
 「地方から都を往来する人びと」佐々木虔一ほか編『古代の交通と神々の景観—港・坂・道—』八木書店, 2023
 『東大寺諷誦文稿』における孝子伝的記述の特質『古代文学』62, 2023
 「古代地方寺院の性格と機能」『史学』91-3, 2022
 『日本霊異記』の成立—日中の仏教説話集の編纂意識を手がかりとして—『仏教文学』47, 2022
 「地方寺院と村堂」吉村武彦・川尻秋生・松木武彦編『シリーズ 地域の古代日本 東国と信越』角川書店, 2022
 『古代国家仏教と在地社会—日本霊異記と東大寺諷誦文稿の研究』吉川弘文館, 2016

所属

三田史学会 / 史学会 / 木簡学会 / 仏教史学会 / 日本仏教総合研究学会

研究紹介

古代日本において大陸・半島から国家的に受容された仏教が、何故古代社会に受容され、人々に信仰されたのかということについて、仏教思想や国家と社会との関係から研究しています。また、古代における仏教説話集などの宗教書の成立について、中国仏教史料との比較から考察を進めています。

1. 指導体制

② 科目担当教員紹介(近世)

上野 大輔 准教授 [博士(文学)京都大学]

専門 日本近世史

- 「加賀藩における真宗寺院の地縁的組織の成立 —触頭・組合を中心に—」『歴史学研究』1061, 2025
 「民衆の生活における思想・信仰」上野大輔・小林准士編『日本近世史を見通す 6 宗教・思想・文化』吉川弘文館, 2023
 「近世前期の宗派紛争と政教関係」『歴史学研究』1015, 2021
主要業績 「神仏分離研究の視角をめぐって」岩田真美・桐原健真編『カミとホトケの幕末維新』法蔵館, 2018
 「近世日本における民衆と仏教」『現代思想』46(16), 2018
 「近世前期における通俗道徳と禅心学」『日本史研究』663, 2017
 「近世仏教教団の領域的編成と対幕藩交渉」『日本史研究』642, 2016
 「幕末期の戦争と寺院・僧侶 —長州藩の事例より—」『史学』84(1-4), 2015

所属 三田史学会 / 歴史学研究会 / 日本史研究会 / 史学研究会 / 日本思想史学会

**研究
紹介**

近世社会は、私たちの生きる近代社会の前提をなす、いわば伝統社会に当たると考えられます。私は仏教を切り口として、この時代の在り方を考えています。「宗教社会史」と銘打って、取り組んでいるところです。
 出発点は、地域で生活を営む民衆と、仏教の救済思想との関係を問うことでした。最近では、仏教教団と幕藩領主との関係、言い換えれば近世の政教関係を検討しています。また、神仏をめぐる秩序にも関心を持っています。

1. 指導体制

② 科目担当教員紹介(近現代)

前田 廉孝 准教授 [博士(経済学)慶應義塾大学]

専門 クリオメトリクス(計量経済史) / 近代日本経済史・経営史 / 日本植民地経済史

主要業績

"Lucrative black marketeers in rural Japan: Entrepreneurial illicit tobacco business in the late 1940s," *KEO Discussion Paper* (Keio Economic Observatory, Keio University), 2025 (forthcoming) (with Jesus Solis [Harvard University, US])

"Colonial pricing toward the metropole's market: Taiwanised rice pricing in Japan during the 1930s," *KEO Discussion Paper* (Keio Economic Observatory, Keio University), 2025 (forthcoming) (with Lung-Pao Tsai [Taipei University, Taiwan])

"From paddy to port: The role of northwestern Korean rice cultivation in interwar Japan," *KEO Discussion Paper* (Keio Economic Observatory, Keio University), 2025 (forthcoming) (with Howard Kahm [Yonsei University, South Korea])

Swinging unstable market after the Great Depression: Daily rice pricing of Japan's futures and spot trades, *KEO Discussion Paper*, 179, 2024

所属

Economic History Society / Economic History Association / Association for Asian Studies / 社会経済史学会 / 経営史学会

研究紹介

市場(market)とは取引所・法的規制など多様な組織・制度が基盤を構成し、価格形成を通じた財・サービスの配分を実現します。こうした市場の基盤的組織・制度に関する記述史料の歴史学的な定性分析と高頻度取引データによる時系列計量経済学的な定量分析を併用し、近代の「帝国日本」における市場の機能と稼働条件の通時的変容を分析しています。市場の役割を歴史的な視点から動態的に理解し、市場の機能向上に貢献可能な知見の獲得を目指しています。

2. 教育内容・研究環境

① 日本史学分野の特長

慶應で日本史を学ぶことの優位性

学べる時代の幅広さ

古代～近現代まで約1800年間で専門的に学べます

日本史学分野7名の教員数は他大学と比較しても充実し、全員が博士号を有しています

学べる領域の幅広さ

宗教、法律、政策、財政、経済、金融など多様な領域を研究する教員から指導が受けられます

教員は複数の学会に所属し、隣接する諸領域の研究動向まで常に目を配っています

国際的視野に立った日本史研究

国内のみならず国外の視点からも日本の歴史を俯瞰できるようになります

海外留学・調査、国際学会報告の経験者を含む特色ある教員構成で、国際学術交流も盛んです

2. 教育内容・研究環境

② カリキュラム

設置科目

	修士課程 (修了必要単位32単位)	後期博士課程 (修了必要単位12単位)
専攻設置	日本史(特殊講義・特殊講義演習)	日本史(特殊研究・特殊研究演習)
	東洋史(特殊講義・特殊講義演習)	東洋史(特殊研究・特殊研究演習)
	西洋史(特殊講義・特殊講義演習)	西洋史(特殊研究・特殊研究演習)
	民族学考古学(特殊講義・特殊講義演習)	民族学考古学(特殊研究・特殊研究演習)
認定科目	文学研究科他専攻・他研究科設置科目	文学研究科他専攻・他研究科設置科目
	他大学交流科目(上限8単位)	
	早稲田大学大学院文学研究科・教育学研究科 学習院大学大学院人文科学研究科	



2. 教育内容・研究環境

③ 修士課程設置科目

日本史特殊講義

日本史特殊講義演習

目的

研究の遂行に必要な専門知識，史料批判と史料読解・分析の能力，思考力および議論構成力を養成

2025年度開講科目

藤本 誠	古代仏教関係史料の史的研究
中島 圭一	中世史料の講読と研究報告
浅見 雅一	キリシタン史の研究
上野 大輔	近世宗教社会史
小山 幸伸	近代史料を読む / 古文書を読む

(非): 非常勤講師

2025年度開講科目

十川 陽一	『令集解』と日唐律令制比較研究
前田 廉孝	A Guide to Cliometrics
高橋 一樹(非)	日本中世の荘園制関係文書の講読

(非): 非常勤講師

2. 教育内容・研究環境

④ 後期博士課程設置科目

日本史特殊研究

日本史特殊研究演習

目的

専門的研究を通じて学会への独自の貢献をするために必要な、史料批判と史料読解・分析の能力、課題発見能力、議論構成力を養成

2025年度開講科目

浅見 雅一	キリシタン時代の倫理に関する研究
中島 圭一	中世史の研究報告
井奥 成彦(名)	日本近世—近代史の研究

(名):名誉教授

2025年度開講科目

休講

2. 教育内容・研究環境

⑤ 研究環境

院生用研究室

院生キャレル（大学院棟内・2019年改装）

日常的に利用可能な院生専用の研究スペース



文学部古文書室

古文書室閲覧室（研究室棟内）

近世農村文書など約6万点の史料を所蔵



2. 教育内容・研究環境

⑥ 図書館・研究所

図書館

メディアセンター(新館・旧館・南館)

三田キャンパスのみで283万冊を所蔵
(慶應義塾全体では497万冊を所蔵)



メディアセンター新館

重要文化財
「相良家文書」
などを所蔵

文・経・法・商4学部
所蔵の図書を
いつでも利用可!

早大図書館の資料
も無料取寄可!

研究所

研究所・センター

各研究所主催のセミナーなどにも参加可能
最新の研究と日常的に接することができる環境



大学院棟
(一部の研究所が入居)


三田キャンパス内研究所(一部抜粋)

斯道文庫	産業研究所
福澤研究センター	会計研究室
ミュージアム・ commons	東アジア研究所
アートセンター	経済研究所
言語文化研究所	法学研究所
外国語教育研究センター	メディアコミュニケーション研究所

2. 教育内容・研究環境

⑦ 経済的支援制度

奨学金・バイト

奨学金	学内アルバイト
<p>日本学生支援機構のほかに豊富な独自奨学金を用意</p> <p>慶應義塾大学大学院奨学金 慶應義塾大学修学支援奨学金 三田会等指定寄付奨学金 研究のすゝめ奨学金 etc.</p> <p>詳細は「奨学金案内」参照 https://my.ebook5.net/keio-shogakukin/annai-daigakuin_2024/</p>	<p>大学院生としての専門性を活かしたアルバイトの機会も有り</p> <p>福澤研究センター 史料整理・目録作成のアルバイト</p> <p>研究能力の向上にも有益</p> <p>そのほかにも全研究科を対象とした学部定期試験の監督補助なども有り</p>
	 <p>旧図書館福澤研究センターが入居</p>

研究費

三田史学会 学会旅費補助制度
<p>研究報告を伴う学会旅費を1回5万円上限で補助</p>
 <p>成田国際空港</p>



2. 教育内容・研究環境

⑧ 学会活動

三田史学会

三田史学会の歩み

年	事項
1890	慶應義塾，大学部開設 (文学科，理財科，法律科設置)
1904	文学科で「国史」の講義開始
1910	文学科史学専攻設置， 三田史学会発足
1920	大学令により文学部設置 (文学科，哲学科，史学科設置)
1921	三田史学会，『史学』を創刊
1928	文学部国史学科設置
1963	文学部史学科国史学専攻設置
1992	国史学専攻を日本史学専攻に改称

三田史学会の活動

①『史学』(査読有)の刊行 / ②大会の開催

2025年度三田史学会大会日本史部会

莊園整理における実態把握のあり方

野尻 従太(慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程)

清衡期と基衡前半期における平泉の形成過程について考察

—「都市づくり」という概念を中心に

カルボヌ・サニア(慶應義塾大学大学院文学研究科後期博士課程)

両大戦間期朝鮮北西部の内地向け米穀供給形成

前田 廉孝(慶應義塾大学文学部)

Kahm Howard (Underwood International College, Yonsei University)

院生による研究成果の報告機会を提供



2. 教育内容・研究環境

⑨ 国際学術活動

史料調査

在外史料の調査活動

教員は国内所在史料のほかに
海外所在史料も調査



国史館台湾文献館史料調査
(2023年前田准教授)

国際学会

国際学会での研究報告

教員は国内学会のみならず
国際学会でも研究報告を実施



Thinking Through Minshu Bukkyo
[Princeton University, US]
(2023年藤本准教授)

講演

海外大学での講演活動

教員は海外大学の講演会で
講師として研究報告を実施



[Ca' Foscari University of Venice, Italy]
(2023年前田准教授)

2. 教育内容・研究環境

⑩ 研究プロジェクト

研究プロジェクトを通じた共同研究の機会

藤本 誠	科研費(基盤C・代表)	2024-28	『法華伝記』の釈読からみた日中仏教信仰史の研究
藤本 誠	科研費(基盤A・分担)	2024-29	障害史構築にむけた学際的資料研究—比較史的観点から—
十川 陽一	科研費(研究成果公開促進費)	2025	律令官人制と古代社会—散位と官人支配・地方社会
中島 圭一	科研費(挑戦的研究(開拓))	2024-29	中世農業生産・流通量推計方法の構築
中島 圭一	科研費(基盤B・代表)	2023-25	実証的な中世マクロ経済推計モデル構築に向けた基礎研究
中島 圭一	科研費(基盤A・分担)	2022-26	中世東アジア海域の地域社会と琉球帝国—集落・信仰・技術—
上野 大輔	科研費(基盤C・代表)	2024-27	伊勢神宮関係史料を用いた近世後期神仏秩序観の基礎的研究
前田 廉孝	たばこ総合研究センター研究助成	2025	戦後占領期山梨県の闇煙草市場
前田 廉孝	科研費(基盤C・分担)	2025-27	向坊盛一郎文書による1930-40年代満洲化学工業史研究
前田 廉孝	科研費(基盤C・代表)	2024-26	1910-30年代「帝国日本」の米価形成メカニズム
前田 廉孝	科研費(挑戦的研究(開拓))	2024-29	中世農業生産・流通量推計方法の構築
前田 廉孝	科研費(基盤B・分担)	2023-25	実証的な中世マクロ経済推計モデル構築に向けた基礎研究

2. 教育内容・研究環境

⑪ 修士論文

近年の修士論文題目

- [2025]奈良朝国家的仏教政策における福田思想の受容過程
- [2025]古代仏教儀礼の表象と心性—仏像・仏舎利奉迎を中心に
- [2024]伝奏論による室町期公武関係の再検討
- [2024]長講堂供花と持明院統の皇統意識について
- [2024]古代から中世にかけての公家社会の懸物と負態
- [2024]平安期における対馬・壱岐の防衛体制について
- [2024]ファン・ポブレ・デ・サモラ「歴史」におけるサン・フェリペ号事件と26聖人殉教

2. 教育内容・研究環境

⑫ 博士論文

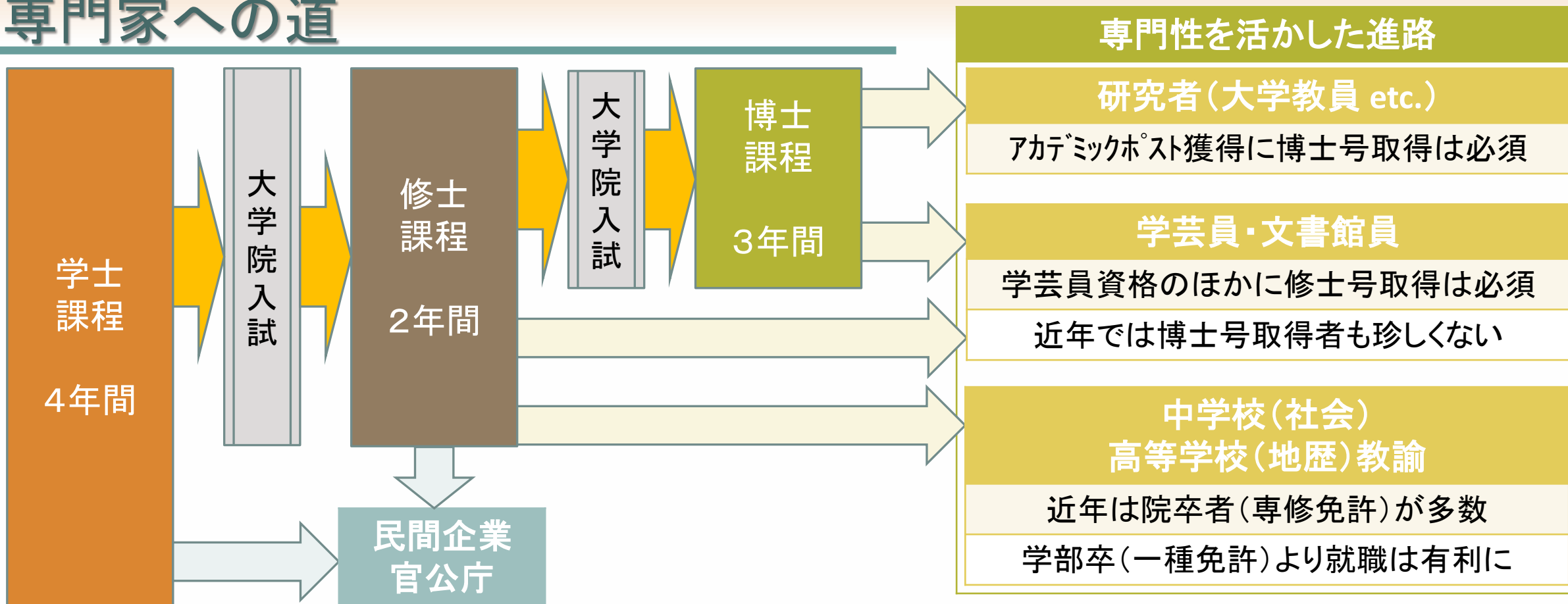
近年の博士論文題目

近世銭貨の研究—田沼期以降の鑄造銭貨を中心に
鎌倉幕府文書行政論
近代日本における企業家と企業家集団
常陸中世武士団の史的考察
古代国家仏教と在地社会
朝鮮通信使迎送体制の研究
中世の契約社会と文書
室町幕府と非守護地域権力
律令国家造営事業の研究—宮都・技術労働を中心として

3. 進路状況・大学院入試

① 専門性を活かした進路

専門家への道



3. 進路状況・大学院入試

② 修了者の声(高校教諭)

公立高校教諭 (男性・2003年修士課程修了)

私は大学の卒論で平安時代末期における院政の成立について取り上げ、大学院進学後はさらに歴史研究の縦軸と横軸の拡張を目指しました。

院政といえば白河上皇が有名ですが、歴史上はこれ以前にも上皇が存在します。私は歴史の縦軸として、主として政治史的な見地から歴代上皇の活動を整理しました。一方横軸として、政治史以外の法制史、社会史、経済史、仏教史など周辺分野の基礎を学んで相互関係を整理し、自分の研究に生かしました。これらの過程で不可欠だったのは、先生や同級生、先輩や後輩との交流です。このことが自分の学びを豊かで奥深いものにしてくれました。また、大学院で学んだからこそ、学内外にわたる大勢の方との交流が可能となり、今でもこうした交流は続いています。

私は大学院修了後郷里へ戻って高校教員となり、現在は母校に勤務しています。今の仕事にも、大学院での高度かつ広範な学びの経験は確実に生かされています。

3. 進路状況・大学院入試

③ 修了者の声(文書館員)

国立公文書館職員 (女性・2013年修士課程修了)

大学院で学んで良かったことは、専門的な知識を身につけ、それを活かす職に就くことができたことです。現在の職は、採用の条件を、修士課程修了程度としており、皆、何かしらの専門を持ち、また、そのことが求められています。

大学院では、学部の授業、課題とは異なり、一つの大きなテーマを自分で設定し、そのテーマに対して情報を集め、論文の作成を行います。情報の収集、文章の作成は、どのような仕事においても大事なスキルであり、大学院では、これらのスキルを磨くことができました。

また、大学院の授業、ゼミは少人数なので、先生、ゼミ生と多く意見を交わすことができます。ゼミでは、自分の研究、考えの伝え方を鍛え、また自分の考えの至らない点に気づくことができました。大学院では、同じような興味関心を持つ人たちとの出会いがあり、卒業後も交流が続いています。

大学院で学んで得るものは多くあり、今後のキャリアのための力になると思います。

3. 進路状況・大学院入試

④ 大学院入試(2024年度実績)

本頁は前年度実績を記載
入学案内websiteで最新情報を確認！
<https://www.keio.ac.jp/ja/grad-admissions/>

修士課程

後期博士課程

【1次試験】外国語

英語 / ドイツ語 / フランス語 / 中国語 / スペイン語 / ロシア語 / 朝鮮語 / イタリア語より1語種

【1次試験】専門科目

論述・史料読解など

【2次試験】口頭試問

研究計画などに関する質疑応答

【1次試験】専門科目

論述

【2次試験】口頭試問

研究計画などに関する質疑応答

過去問題(専門科目)閲覧website

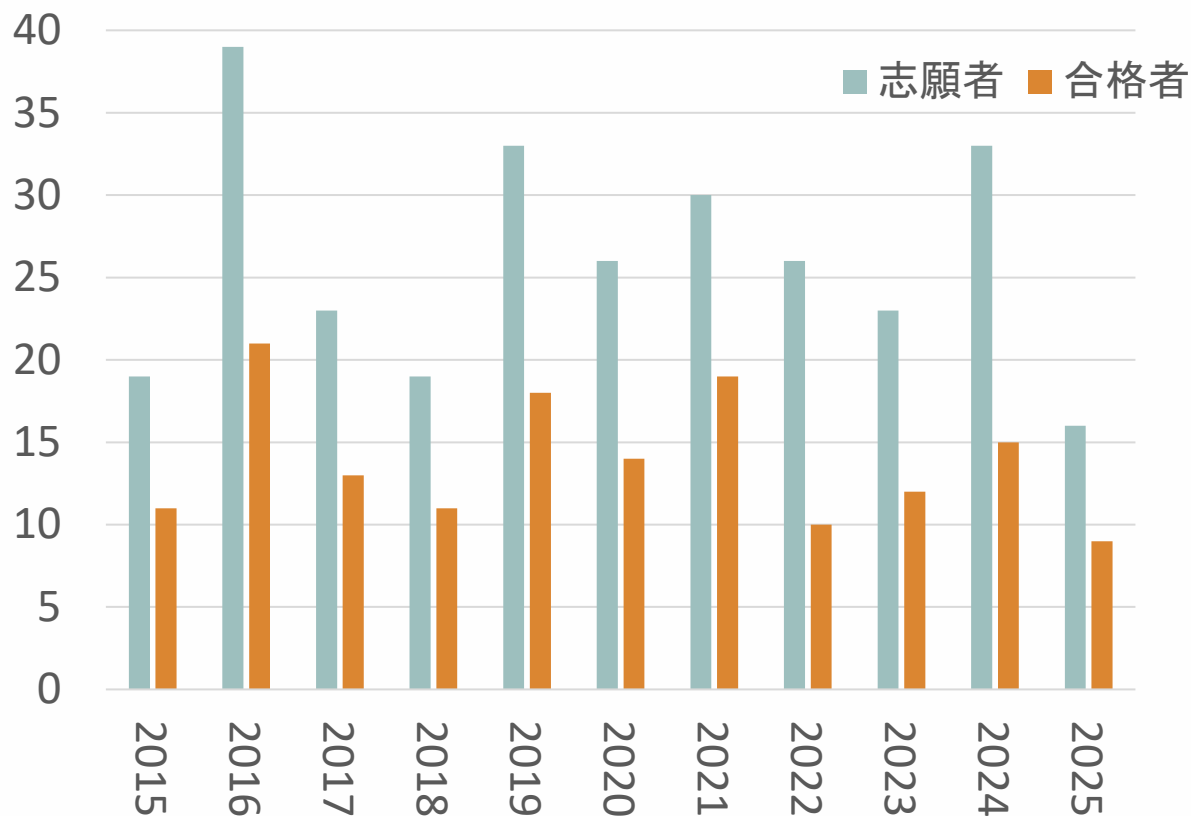
〔修士課程〕<https://www.keio.ac.jp/ja/grad-admissions/masters/past-exams/>
〔後期博士課程〕<https://www.keio.ac.jp/ja/grad-admissions/doctoral/past-exams/>



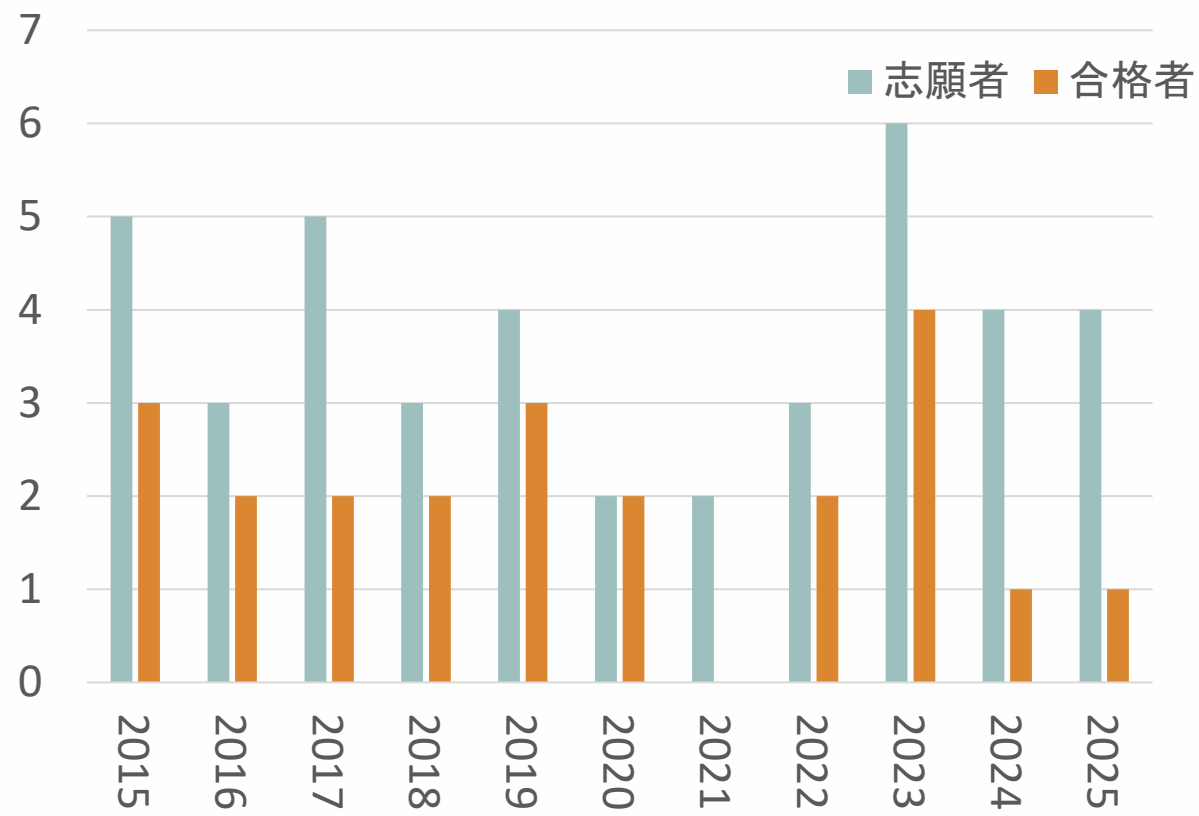
3. 進路状況・大学院入試

⑤ 志願者・合格者数(史学専攻合計)

修士課程



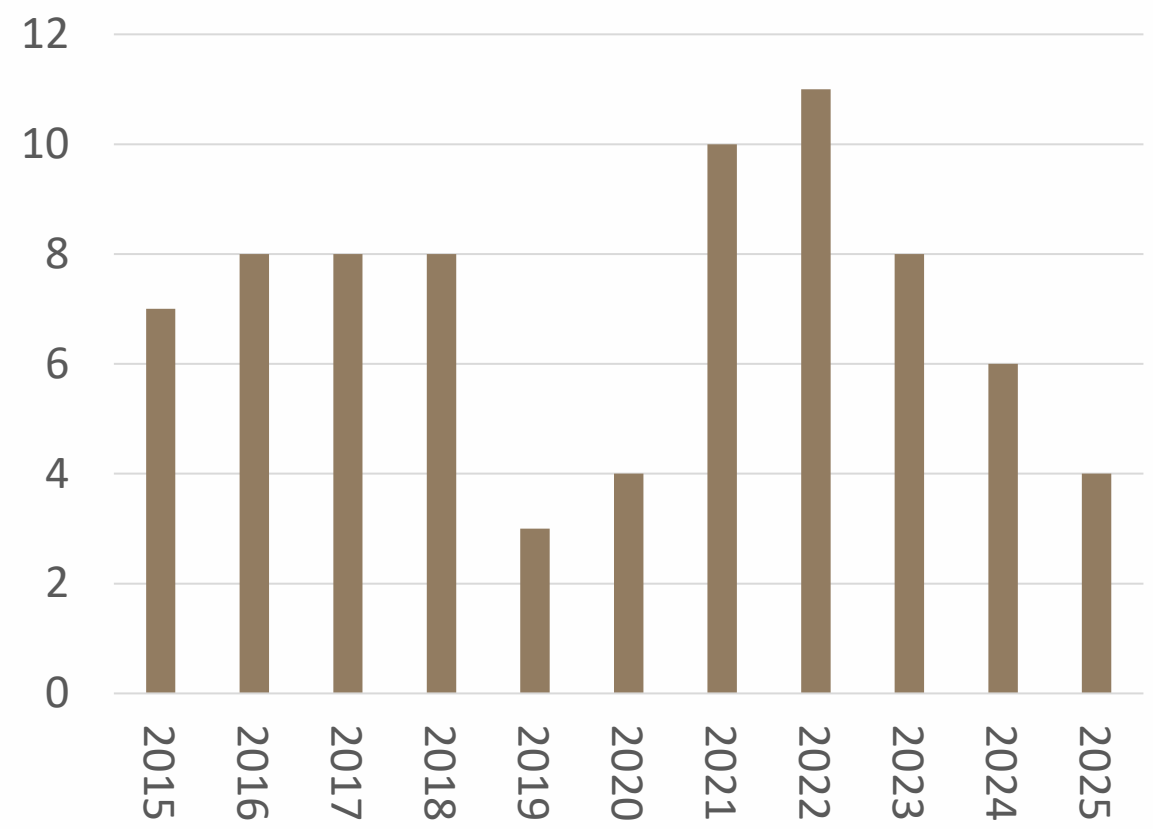
後期博士課程



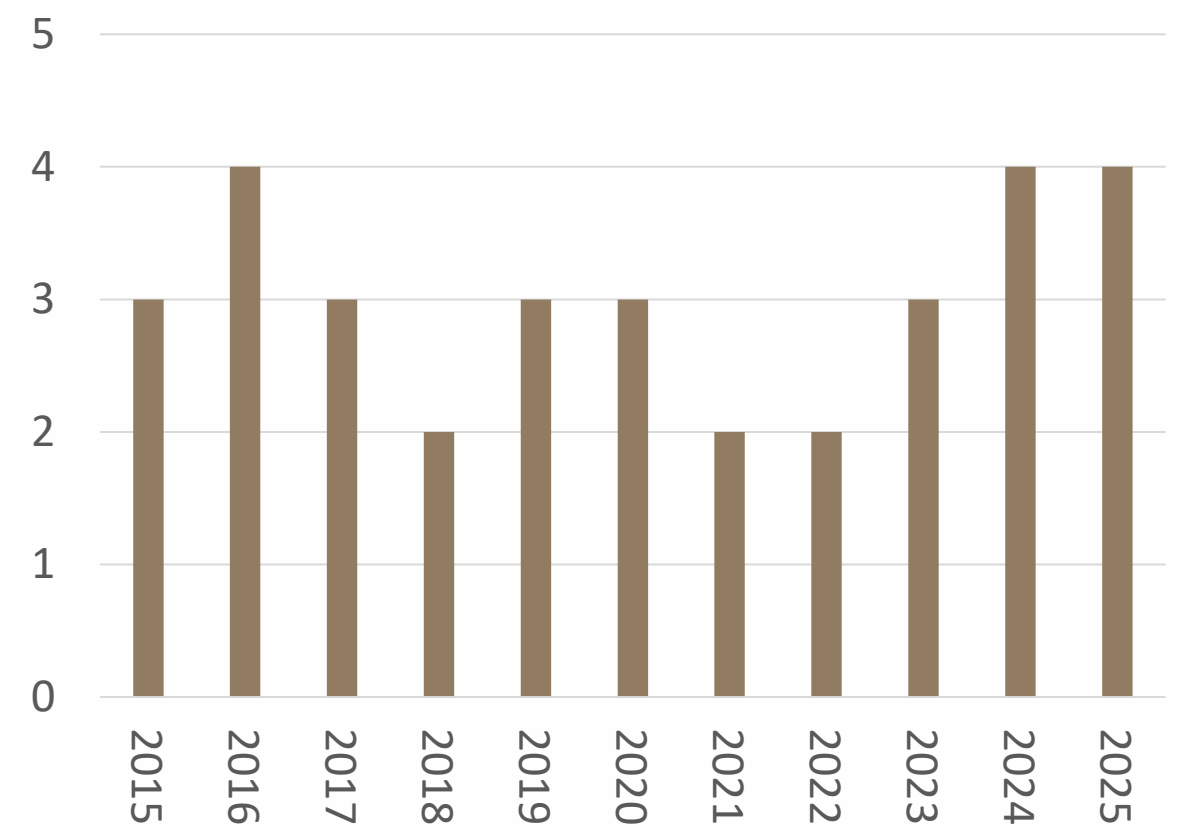
3. 進路状況・大学院入試

⑥ 在籍者数(日本史学分野のみ)

修士課程



後期博士課程



おわりに

ぜひ日本史学分野へ！！

詳細な情報は日本史学専攻websiteをご覧ください
<https://sites.google.com/view/keio-flet-jpnhistory/>

東大寺

